

『安全な雪下ろし作業等の 安全システム』について

山形県村山総合支庁
雪プロジェクト担当

平成18年豪雪

- 全国では、死者152名、負傷者2,145名

山形県では...

- 死者13名、負傷者270名

重傷者160名...全国ワースト1位

- 近年の雪害事故の傾向(東北工業大学沼野教授発表資料より)

◇ 除雪中の事故(約4分の3)

◇ 高齢者(65歳以上が約3分の2)

山形県としての対応

- 「パンフレット」の作成（平成18年度）
- 「安全な雪下ろし作業」DVD制作（H19）
- 「安全な雪下ろしガイド」（H19）
- 「雪下ろし・落雪事故防止注意喚起情報
「雪情報システム」（H14）（H19）
- 「山形県消融雪システム研究会」（H14）

「パンフレット」(安全な雪下ろしのために) の作成(平成18年度)

ポイント1 屋根の雪のゆるみに注意!

- 雪かき日の午後からは、雪がすべり落ちやすく危険なので、なるべく作業は控えましょう。
- 屋根からの雪どけ水や雪が動く前に注意しましょう。

ポイント2 安全な服装で

- ヘルメットを正しく着用しましょう。
- 息がくれないで動きやすい服装にしましょう。
- 厚手の長靴は避けましょう。足裏の感触が大事です。
- すべりにくい防滑性のゴム手袋が有効です。

ポイント3 命綱を使いましょう

- 転落防止のために命綱を使いましょう。
- 命綱にはザイルや鋼ロープなどを使いましょう。トラロープはすべりやすいので使わないようにしましょう。
- 命綱を固定するには、専用のアンカーを使う。反対側の家の柱に結ぶなど、状況に応じて工夫しましょう。
- 命綱を柱に固定するには、安全帯など補助のものを使いましょう。
- 命綱は正しく結びましょう。
- 命綱は屋根の上で留まる長さにも調整しましょう。
- 命綱は正しく使用しないと、逆に危険です。

ポイント4 はしごはしっかり固定

- 転落防止のため、はしごの足元をしっかりと固め、上部をロープで固定しましょう。
- はしごは軒先より60cm以上高くしましょう。
- 壁際に対して真っ直ぐに、決められた角度でかけましょう。
- はしごの折り目や接合部に注意が必要です。

命綱の結び方
- ちやひ結び -

安全な雪下ろしのために

ポイント5 使いやすい除雪道具を

- 軽くて握りが付かにくいアルミ製スコップやスノーダンブを使いましょう。
- 雪がつかせにくくなるスプレーも有効的。

ポイント6 2人以上で作業

- 雪下ろしは、事故に備えて2人以上で作業しましょう。
- やむを得ず一人で作業する場合は、家族と隣近所に声をかけましょう。
- 携帯電話も持ちましょう。

ポイント7 むりな作業はやめましょう

- 雪下ろしは寒作業です。体調の悪いときは無理は止めましょう。
- 上る前に準備運動を忘れずに行いましょう。
- 十分に休憩をとらねばならぬ。肉體にひびきかけておろしましょう。
- 息が止まるときはスコップ、スノーダンブを離して息を守りましょう。

ポイント8 足場はいつも注意!

- 高窓に巻き込まれないように、上から雪下ろしをしましょう。
- 足場は慎重に作りましょう。
- 軒先は危険です。足元より下には足場を作りおろしましょう。
- 厚さ20cm程度の雪を積んだ方がすべりにくい。
- 軒先の雪は屋根に落としましょう。
- 軒下の人が屋根にも注意しましょう。
- 雪かきのつらさを感じたら十分短い時間で休ませてください。

屋根に登る前に!

- 屋根の雪はゆるんでいませんか?
- 安全な服装をしていますか?
- 命綱の準備はできていますか?
- はしごはしっかり固定できていますか?
- 除雪道具は使いやすいものですか?
- いっしょに除雪する人はいますか?
- 体調は大丈夫ですか?

山形県
山形県生活安全課 TEL: 0237-65-2121

結び方の説明が難しい...

- 安全な雪下ろしの映像化

→ 「安全な雪下ろし作業」DVD制作 (H19)

ポイント

- 業者ではなく一般住民の方に出演

→ 普通の人に近い形で誰でもできる

- 官民協働での制作

→ 手弁当での協力に対し、感謝状を贈呈

- 複写自由 → 普及を目的 現在HPでも配信

撮影の風景









転ぶシーン
失敗例も →





その他の取り組み

●「安全な雪下ろしガイド」

- ・19年度 9万部作成
- ・市町村、ホームセンターに配布
- ・「こちら防災やまがた！」のHPからダウンロード可能



●「雪下ろし・落雪事故防止注意喚起情報」

- ・平成19年度から運用開始
- ・県内3地域を対象
- ・設定基準(例、東南・西村山の場合)
 - ①積雪深20cm以上
 - ②過去10日間の降雪量が20cm以上
 - ③最高気温が -2°C 以上
- ・すべての設定基準を満たした場合発令する
- ・昨年度、発信期間中の事故発生率 8~9割

●「雪情報システム」(H14～)

- ・平成14年度から運用開始
- ・県内主要12地点について、気象情報に標高、地形等の条件を加味して細やかな降雪量予測情報等をウェブサイトで提供
- ・平成19年度は118万以上のアクセス件数

●「山形県融雪システム研究会」(H14～)

- ・県内の融雪機器メーカーの団体
- ・平成14年に設立 当時の事務局は山形県
- ・現事務局は東北電力、山形県は特別会員
- ・融雪商品モデル展示場の運営
- ・HPの運営／ライブカメラによる融雪状況映像配信
- ・融雪相談会ほか各種イベントへの出展

村山総合支庁雪プロジェクト担当

- 平成19年度に設置、専任職員3名を配置
- 山形県村山地方をフィールドに、先進的で実践的な取り組みを展開
- これまで、やまがたゆきみらい推進機構の設立や官民協働除排雪、安全な雪下ろしDVD製作、融雪槽実証試験などを行う

やまがたゆきみらい推進機構の設立

- 産学官民の連携で互いのノウハウを持ち寄る
- 3つの専門部会...屋根雪、宅地内雪、利雪
- 具体的で実用的な施策で問題を解決

